

Fun For the Future!

楽しみながら、楽しい未来へ

バンダイナムコグループは「夢・遊び・感動」をお届けする企業として、「Fun For the Future! 楽しみながら、楽しい未来へ。」を合言葉に、社会とステークホルダーのよろこびにつながる活動を推進して行きます。

CONTENTS

バンダイナムコグループのCSRステートメント

CSRトップメッセージ

CSRマネジメント・CSR方針

CSR推進体制

重要項目の設定と設定プロセス

重要項目別の取り組み

商品・サービスの安全と衛生

環境配慮

コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー

サプライチェーン管理

地域社会とともに

地域社会に向けた取り組み

次世代を担う人づくりへの取り組み

文化の発信

新型コロナウイルス感染症拡大に対する支援活動

社員とともに

方針・考え方

多様な人材の採用と登用

教育・研修

働きやすい職場環境づくり



バンダイナムコグループのCSRステートメント



楽しみながら、楽しい未来へ。

バンダイナムコのCSRは、楽しみながら、楽しい未来をつくる活動です。私たちの仕事は、一人ひとりの心の中に生まれた「夢・遊び・感動」のアイデアを、大勢の手でカタチにして、一人ひとりのお客様の心を響かせること。

そして、その「夢・遊び・感動」は人の心を癒し、励まし、世界にひろがることで、世の中を変えることも、未来を変えることもできると信じています。バンダイナムコグループは「夢・遊び・感動」をお届けする企業として、「Fun For the Future! 楽しみながら、楽しい未来へ。」を合言葉に、社会とステークホルダーのよろこびにつながる活動を推進して行きます。



CSRトップメッセージ



バンダイナムコグループは、地球環境や社会とのかかわりにおいて「Fun For the Future!楽しみながら、楽しい未来へ。」をCSR活動のコンセプトに掲げています。さらに具体的な活動の指針として重点的に取り組む必要があるテーマを「バンダイナムコグループのCSR重要項目」として設定し、事業を通して楽しい未来づくりに向けた活動に取り組んでいます。

2021年4月には、「バンダイナムコグループのサステナビリティ方針」を策定しました。本方針は、バンダイナムコグループが持続可能な社会の実現に向けてサステナブル活動を推進するにあたっての基本となる考え方であり、具体的には、「IP軸戦略のもと、ファンとともに、バンダイナムコグループが向き合うべき社会的課題に対応したサステナブル活動を推進」することとしています。また、その一環として、2022年4月からスタートする次期中期計画に向けて活動のマテリアリティを特定（重要項目を再選定）するほか、脱炭素化社会の実現に向け、2050年までにエネルギー由来の二酸化炭素排出量を実質ゼロとすることを中長期目標として掲げました。

バンダイナムコグループは、社会や顧客をはじめとするステイクホルダーとともに歩む存在として、様々な社会的課題に向き合い、期待に応え、さらには期待の先に行くことが必要だと考えています。環境問題への対応などのサステナブル活動においても、バンダイナムコらしい形で社会の期待に応えていくためには、我々の強みであるIP軸戦略のもと、ファンとともに取り組みを行うべきだと考えています。IPを活用した具体的な活動として、2021年4月1日より、「ガンブラ」のランナー（プラモデルの枠の部分）を全国のファンから回収しリサイクルを推進する「ガンブラリサイクルプロジェクト」をスタートしました。「ガンブラ」は、ファンとつながり、ファンの意見を取り入れるなど、ファンと一体となって事業を展開することで進化してきました。「ガンブラリサイクルプロジェクト」をはじめバンダイナムコグループが取り組むべき活動においても、IPを通じて企業とファンが一体となって推進することで、持続可能な社会が現できると信じています。今後もファンとともに考え取り組んでいく、バンダイナムコらしいサステナブル活動を推進していきます。

株式会社バンダイナムコホールディングス
代表取締役社長

川口 勝

CSRマネジメント・CSR方針

バンダイナムコグループのCSRマネジメント

バンダイナムコグループでは、特に重点的に取り組む必要があるテーマを「バンダイナムコグループCSR重要項目」として設定し、さらに事業セグメント・関連事業会社の活動レベルに落とし込んだ「CSR重点取り組みテーマ」を掲げ、各事業特性を活かした活動を行っています。

バンダイナムコグループのCSR方針



CSR推進体制

バンダイナムコグループでは、バンダイナムコホールディングスの取締役（社外取締役を除く）などで構成され、バンダイナムコホールディングス代表取締役社長が議長を務めるグループCSR委員会を設置し、スピード感を持って事業と一体となったCSR活動を推進しています。また、CSR活動の推進は経営戦略上の重要な取り組みであるという考えのもと、定期的に当社取締役会にて活動状況の報告を行っています。

さらに、グループCSR委員会の下部組織としてグループCSR部会を設置しています。グループCSR部会は、バンダイナムコホールディングス担当取締役（チーフ・エコロジー・オフィサー）を事務局長とし、各事業統括会社と主な関連事業会社のCSR担当が参画する会議体で、各事業における重要取り組みテーマの進捗状況の共有や情報交換、各種課題の検討などを行っています。グループCSR部会で立案された具体的施策はグループCSR委員会で検討のうえ実行されます。

CSR推進体制



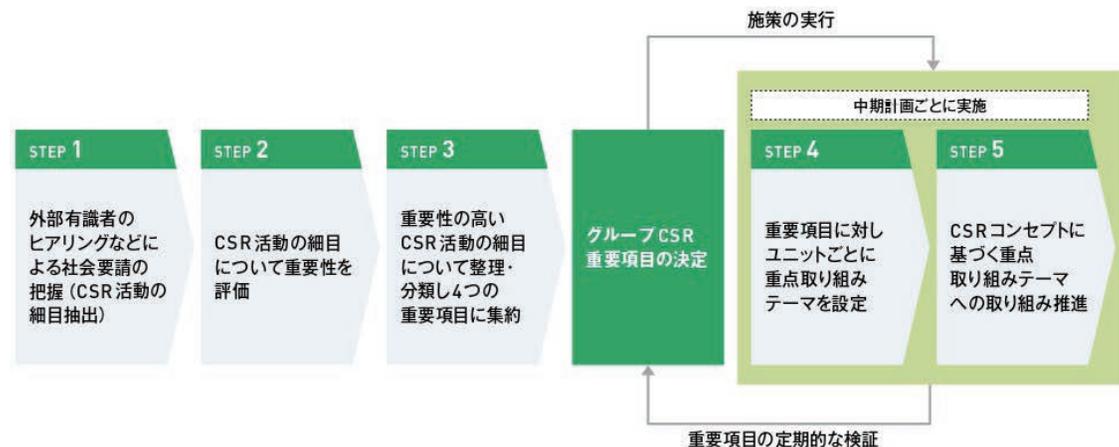
重要項目の設定と設定プロセス

CSR重要項目の設定について

CSR活動のさらなる実効性向上を目指すため、「グループCSR委員会」で「バンダイナムコグループCSR重要項目」を設定し、2010年より運用するとともに、定期的な見直しを行っています。「バンダイナムコグループCSR重要項目」は、グループを取り巻くさまざまな社会的課題に対し、事業が社会に与える影響などから、特に重点的に取り組む必要があるCSRテーマについて、多角的な抽出と評価により設定しています。この重要項目に沿った取り組みを従業員一人ひとりが推進することで、世界中のお客さまに「夢・遊び・感動」を提供する企業として、社会的課題の解決につなげていきます。

CSR重要項目の設定プロセス

「バンダイナムコグループCSR重要項目」は、ステークホルダーとバンダイナムコグループにとって「最も重要なCSR項目とは何か」を再確認するプロセスを経て設定しました。まず、グループを取り巻く社会要請の把握として、4名の有識者の方からヒアリングを実施。さらに、各種外部調査レポートなどをもとに、CSR活動の細目68項目をリストアップし、中期計画やガイドラインなど下記の観点をもとに重要性の評価を実施した結果、各CSR細目の整理分類により、4つの「CSR重要項目」として決定しました。「CSR重要項目」は中期計画ごとに妥当性を検証し、グループの方向性と社会要請との間に齟齬がないことを確認したうえで、施策を実行しています。2022年3月期は、「バンダイナムコグループ サステナビリティ方針」に基づき、グループのマテリアリティの特定（「CSR重要項目」の妥当性の検証）を進めています。特定したマテリアリティのもと、2022年4月からの次期中期計画における目標の設定と施策の実行に取り組んでいきます。



設定時に参考にしたご意見・考え方

バンダイナムコグループの考え方・方針

- ▶ バンダイナムコグループ企業理念
- ▶ バンダイナムコグループのサステナビリティ方針
- ▶ バンダイナムコグループコンプライアンス憲章
- ▶ バンダイナムコグループ中期計画
- ▶ グループの関連方針・ガイドライン（グループCSR規程など）

国内外の潮流・社会要請

- ▶ 国際機関や調査機関、政府の各種指針、ガイドライン
例：SDGs（持続可能な開発目標）、環境省「環境報告ガイドライン」、GRIガイドライン、TCFD提言、SASB基準、ESG評価機関のガイドラインやレポート（CDP、MSCI、Sustainalytics、FTSE）など
- ▶ 外部有識者ヒアリング
- ▶ 消費者アンケート（不定期実施）
- ▶ CSR先進企業の取り組み

バンダイナムコグループのサステナビリティ方針

バンダイナムコグループは、IP軸戦略のもと、ファンとともに、バンダイナムコグループが向き合うべき社会的課題に対応したサステナブル活動を推進します。

具体的取り組み

- ▶ マテリアリティの特定（重要項目の再選定）
- ▶ IP軸戦略と連動した活動を推進

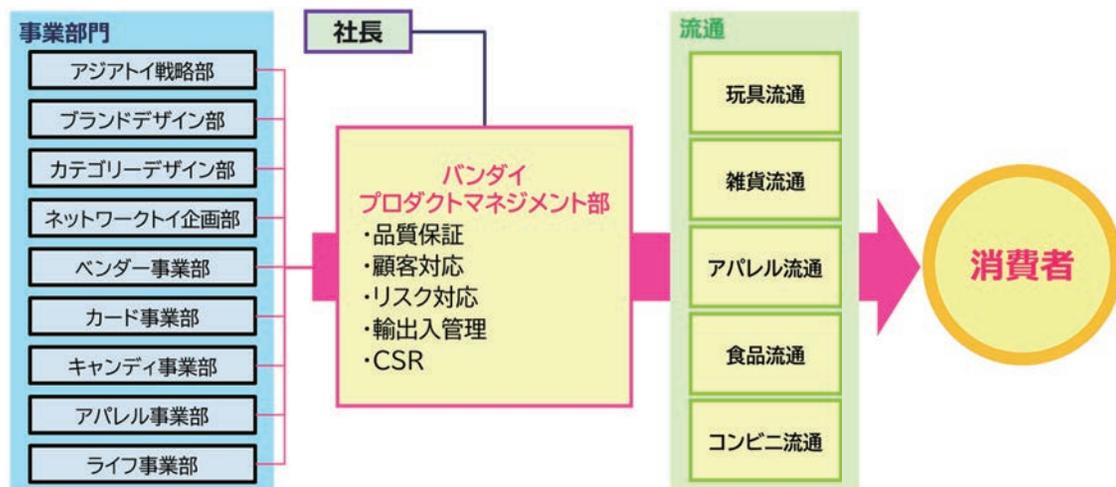
脱炭素化に向けた中長期目標	
目標	2050年まで： 自社拠点（社屋、自社工場、直営アミューズメント施設等）におけるエネルギー由来の二酸化炭素排出量 実質ゼロ
中間目標	2030年まで： 自社拠点におけるエネルギー由来の二酸化炭素排出量 2020年3月期比 35%削減（2014年3月期比 50%削減）
主な取り組み	省エネルギー施策のさらなる推進、再生可能エネルギーの導入等

各重要項目における取り組み 商品・サービスの安全と衛生

バンダイナムコグループでは、お客様に安心してお楽しみいただくため、私たちがお届けする「夢・遊び・感動」の基盤となる商品・サービスの安全と衛生の向上に努めています。

バンダイの品質保証体制図

バンダイでは商品の性能・安全性を保障するため企画・設計・生産・販売を行う事業部門とは別に独立した品質管理部門（プロダクトマネジメント部）を設置しています。

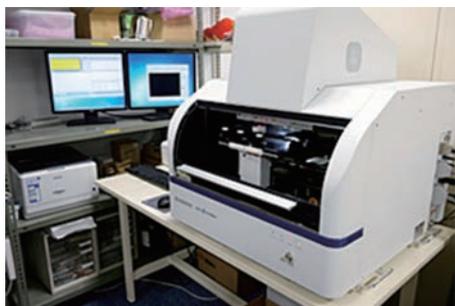


玩具の安全性について広範囲にわたる厳しい検査を実施

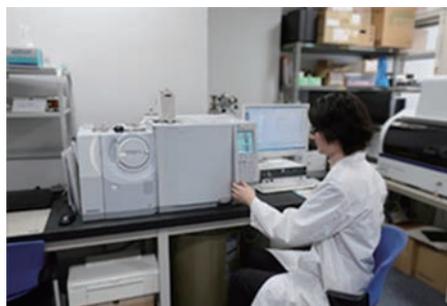
バンダイでは年間14,500点におよぶ商品を取り扱っています。そのうち新商品は年間8,000点に上り、その種類も多岐にわたります。それに伴い、商品の特性や幅広いお客さまのニーズによりさまざまな品質基準を設け、設計や素材の選定を行っています。例えば、対象年齢に応じて部位の形状を確認したり、首にかける紐などは、長さに配慮するとともに一定の荷重がかかるとすぐに外れる構造を採用しています。バンダイ品質基準は「安全性」「性能」「表示」の大きく3つのカテゴリーのもと、約370にわたる項目で構成されています。新商品についてはバンダイ品質基準を基に全商品、新製品検査を実施し、商品の安全性を確認しています。従来品において仕様変更がある場合は新製品検査と同等の検査を実施しています。生産した商品は全て受入検査をロット毎に行っています。中国エリアに関してはBANDAI (SHENZHEN)が実施しているほか、その他エリアは第3者機関に依頼し、量産品が求められている品質で生産されていることを確認しています。

またバンダイは、(一社)日本玩具協会に加盟しており、協会の定める玩具安全保障制度「STマーク」の対象となる製品は原則ST基準をクリアし「STマーク」を取得しています。

<検査の一例>



蛍光X線分析装置
毒性のある重金属の有無を検査します。



ガスクロマトグラム質量分析装置
身体に害を与える可能性のある
規制化学物質の有無を検査します。



ボタン耐久試験機
想定された使用回数に応じて、
ボタンの耐久性を確認します。



首にかけるストラップは、
引っ掛けても喉を圧迫しないよう、
ある一定の荷重を超えると
外れるか検査します。



プッシュブルゲージ
子どもの力で引っ張っても
壊れないか、壊れる場合にも
安全かを検査します。

©BANDAI

また、ハイターゲット（大人層）向けの商品を展開しているBANDAI SPIRITSでは、お客様が安心して適切に商品をお使いいただけるように、バンダイやバンプレストで長年培ってきた経験ノウハウを活かした品質管理を行っています。製品を安全に使っていただくための情報（組み立て方や使用方法、注意事項など）や通常使用しても問題の無い強度など、構造についての基準を定め、それに則った商品をお客さまにお届けしています。



バンダイは「製品安全対策ゴールド企業」マークに★を取得

「製品安全対策ゴールド企業」マークは、「経済産業大臣賞」を3回以上受賞した企業に授与されるものです。そして、5年経過後の更新審査の認定により、「大企業 製造事業者・輸入事業者部門」で初めて「製品安全対策ゴールド企業」マークに★が追加されました。



2020年度更新審査結果の総評

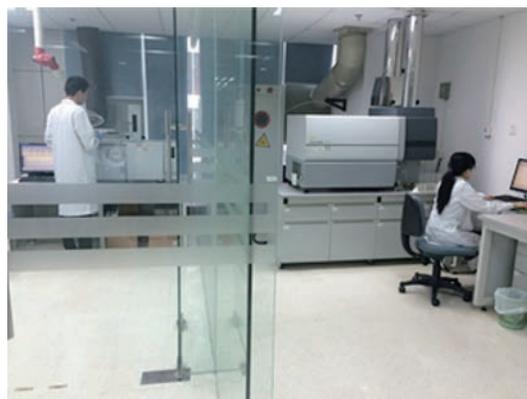
製品安全対策ゴールド企業の認定後、従来の取組を維持しつつ、独自の品質・安全基準の更新を続けるなど、より高いレベルでの製品安全実現に向けた新しい取組を加えられていることを確認しました。また、学校教育やインターネットを通じて、製品安全文化醸成に向けた発信や各種取組を積極的に行っていることを確認しました。今後は、製品安全のトップランナーとして、業界内にとどまらず、広く他社の模範となる取組を進めるとともに、製品安全に関する普及啓発を図っていくことを期待します。

生産段階における安全・安心への取り組み

バンダイの商品は、そのほとんどを海外の協力工場に生産委託しています。中国・深圳にある BANDAI (SHENZHEN) は、玩具ホビー事業における生産管理の重要拠点であり、品質管理・品質検査や各種安全性の確認などの業務を行っています。品質保証活動の充実に向けた情報収集及びそのフィードバックや、検査体制の強化、幅広い社員教育などに取り組むと同時に、生産品質課題の共有化を図っています。



現場での品質管理の様子



BANDAI (SHENZHEN) での材料検査の様子

アートプレストでは、生産工程における製品の品質の維持、不良品の発生防止のための体系を図式化し管理するとともに、工場監査を行い、生産現場における製品の品質管理の徹底に取り組んでいます。また、使用資材について、材料種類ごとおよび製品タイトルごとのデータベースを構築・管理するとともに、新規に導入した資材について材質に沿った定期検査を実施することで、安全性の確保に努めています。

お客さま相談センターの取り組み

お客さまとのコミュニケーションを推進するうえで、重要な役割を果たしているのが「お客さま相談センター」です。一例として、バンダイでは月間約1万件寄せられるお客さまからの声に迅速に対応するため、センターに届いたご意見やご要望について、個人情報の取り扱いに細心の注意を払いながらデータベース化を行っています。これにより、よりの確できめ細やかな対応を可能にするとともに、蓄積された情報を商品開発に反映し、顧客満足の向上につなげています。



施設の安全性に関する点検を実施

バンダイナムコアミュージメントでは、建築・電気・消防・筐体などを含め、すべてのアミューズメント施設で安全点検（注意点検・自主点検）を実施しています。また、キッズスペースや大型遊戯施設においても、法定点検に加え自主点検などの定期点検を実施しています。さらに、飲食を提供する施設においては、自主衛生検査や衛生講習会も実施しています。

直営アミューズメント施設での電気設備点検

多くのアミューズメントマシンが稼働するバンダイナムコアミュージメントのゲームセンターでは、店内設備の安全点検のほかにも、バックヤードを含む電気設備に特化した定期点検を専門業者の手で実施しています。



直営アミューズメント施設での電気設備点検の様子

大型遊戯施設の立体遊具設置検証

安全性の高い遊具であっても、使用方法や設置条件によっては、けがや事故など思わぬ事態が発生する可能性があります。バンダイナムコアミュージメントでは、設置遊具の安全性はもとより、実際に施設に設置された状況での安全性も検証し、安心して施設をご利用いただけるよう取り組んでいます。



指示役



観察者



観察者の視点

リモートを活用した検証の様子

指示役と観察者はインターネット経由でリモート接続している
指示役からの指示に従って、観察者はスマートグラスを使って危険部位の発見をする

業務用ゲームにおける安全性検証の取り組み

バンダイナムコアミューズメントでは、ゲームの「楽しさ」を追求すると同時に、お客さまに安心して安全に遊んでいただくための取り組みを推進しています。その一環として、開発、生産、品質保証、サービスなどさまざまな部署による安全性検証（セーフティーレビュー）を行っています。2020年度は、新製品を中心に60件のセーフティーレビューを行いました。新製品の開発過程では、お客さまが手に触れる部分の安全性のほか、施設スタッフがメンテナンスする際の安全性についても検証しています。



業務用ゲーム開発での安全性検証

ライブ・イベントにおける安全・安心への取り組み

バンダイナムコアーツやバンダイナムコライブクリエイティブでは、ライブ・イベントの開催において、来場するお客さまが安心してお楽しみいただけるように、安全に配慮した運営に取り組んでいます。一例として、事故の未然防止や、万が一の際に迅速に対応できるよう、ライブ・イベントの運営マニュアルの中に対策や対応方法を詳細に記載し、事前のスタッフミーティングにて関係者に周知徹底を図っています。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインでの配信、ライブ・イベント実施におけるガイドラインを策定しています。そのほか、ユーザビリティとセキュリティの向上を目的として、紙チケットから電子チケットへの移行を推進しています。



セキュリティチェックの様子
(写真は2019年度の活動)

物流業務における安全運転教育への取り組み

ロジパルエクスプレスでは、採用時の安全運転教育としてインストラクター制度を導入し、添乗教育指導員の育成及びドライバーの見極め検定を実施しています。

運行管理者研修、各種安全運転研修を開催、ドライバーコンテストにて優秀なドライバーを決定し表彰を行うことで、モチベーションの向上及び安全運転への意識向上を徹底しています。



ドライバーコンテストの様子

安全性優良事業所（Gマーク）の認証取得

ロジパルエクスプレスでは、輸配送業務の安全性向上の一環として、（公社）全日本トラック協会が認定する貨物運送事業安全性評価事業の安全性優良事業所（Gマーク）の取得に取り組んでいます。

交通安全の啓発活動への取り組み

バンダイロジパル・ロジパルエクスプレスのトラック・乗用車を配置している事業所では、地区の交通安全協会の活動に賛同し、交通安全活動の一助となるよう寄付を継続して行っています。また、春・秋の交通安全週間には所轄の警察署や交通安全協会等と街頭活動を行い、交通安全の啓発に努めています。

各重要項目における取り組み 環境配慮

バンダイナムコグループでは、「夢・遊び・感動」を次の時代につなげるために、地球環境に配慮し、事業活動におけるエネルギー削減や商品・サービスにおける省資源化に努めています。

CO₂排出量削減への取り組み

バンダイナムコグループでは、各事業分野において年度ごとにCO₂排出量の削減目標を設定し、エコに関する取り組みを通じた削減努力を行っています。2020年度のグループ全体の排出量は2013年度対比約29%の削減となる52,256t-CO₂となりました。なお、2018年度からは排出量管理とともに原単位(※)による管理も導入し、CO₂排出量の削減に努めています。

※従業員数や延床面積あたりのCO₂排出量

「ガンプラ」における環境保全の取り組み

バンダイナムコグループは、ガンダムシリーズのプラモデル「ガンプラ」のランナー（プラモデルの枠の部分）を回収し、ファンのお客さまとともに世界初のケミカルリサイクルによるプラモデルの製品化を目指す「ガンプラリサイクルプロジェクト」を2021年4月よりスタートしています。バンダイナムコアミューズメントの直営アミューズメント施設約190店舗に専用の回収ボックスを設置し、全国のファンからランナーの回収を行っています。集まったランナーは、「ガンプラ」の生産工場「バンダイホビーセンター」から生産工程で排出されるプラスチックと合わせて、一部をケミカルリサイクルの実現に向けた実証実験用の材料として、残りをマテリアルリサイクルとサーマルリサイクルにより再活用します。



「バンダイホビーセンター」では、本プロジェクトによるサーマルリサイクルで発電した電力の供給を受け、ガンプラの生産につなげているほか、壁面にソーラーパネルを設置し年間56,000kWhの太陽光発電を行っています。さらに、雨水・地下水の再利用システムを設置し、年間2,000トンの水を再利用するなど、地球環境に配慮した取り組みを積極的に行っています。



ガシャポン®カプセル容器の材料削減・再資源化

バンダイは、2種類のプラスチック素材で構成されているガシャポン®カプセル容器と比較して、プラスチック素材の種類をPP（ポリプロピレン）1種類にすることで約6割軽量化された「MONOカプセル」を投入しています。現在、ほぼすべてのカプセルの「MONOカプセル」への移行を達成しています（カプセル自体が製品のものを除く）



MONOカプセル



店舗に設置された収集BOX
「ガシャポイントステーション」

プラスチック使用量を削減する活動を推進す

る一方で、2006年度より店舗で排出される空カプセルの収集に取り組んでおり、2020年度には約6.1トンの収集を実施しました。さらに、2021年度からは、バンダイナムコアミュージメントが展開するカプセル玩具専門店「ガシャポンのデパート」でも収集をスタートしています（2021年4月時点3店舗にて回収中）。収集された空カプセルは再資源化され、プラスチック製植木鉢や事務用文具トレイなどに生まれ変わっています。

さらに近年はカプセル自体を廃止し商品そのままの形で排出されるカプセルレス商品を発売し、人気となっています。

カプセルにあたる部分がキャラクターフィギュアの頭部になり胴体・手足といったパーツを取り付けることで大きなフィギュアになる仕様など、新しい商品価値を生み出しつつ、環境にも配慮した商品としてエコメダル認定しています。

カプセルレス商品は2015年10月～2021年3月までにシリーズ累計5,002万個を出荷。人気の「だんごむし」シリーズをはじめ多くの新製品が発売されています。



かめ インドホシガメ



だんごむし04
まんまるこがね



カプキャラ サンリオキャラクターズ4
ハローキティ（70'sデザイン）



カプキャラ ポケットモンスター6
ピカチュウ



かいじゅうステップ ワンダパダ
カプセルラトル



ガシャポンタマゴラス4
カルノタウルス

容器包装における省資源・プラスチック削減の取り組み

バンダイは、ガシャポンのカプセルレス商品の拡大・新型カプセルの普及をはじめ、プラスチック製ブリスターをパルプモールド（紙製）に変更、パッケージの簡素化の拡大に伴い、容器包装使用のプラスチックの使用量を2014年度の売上原単位2.42 t/億円と比較し、2020年度は2.19 t/億円と2014年度対比90.4%（9.6%のプラ削減）を達成しました。

BANDAI SPIRITSは、「一番くじ」の商品において、梱包材の資材をプラスチック製ブリスターから段ボール製に変更することを推進しています。2021年3月末までに全商品数の約55%を段ボール製に移行済みで、年間で想定約107トンのプラスチックの削減に成功しました。



環境ラベル「エコメダル」認定制度の推進

玩具ホビー事業の製品全てを対象に、独自の環境基準をクリアした製品に与えられる「エコメダル」認定制度を導入しています。

「製品本体」「容器包装」「取扱説明書その他」の категорияごとに設定した基準を満たせば認定となり、2020年度は319アイテムがエコメダル認定となりました。（昨対125%）このエコメダルマークは商品パッケージやWEBサイト（おもちゃの会社バンダイのCSR）にて消費者にPRし、普及に努めています。



エコメダルの一例



パッケージやWEBサイト（おもちゃの会社バンダイのCSR <https://www.bandai.co.jp/csrkids/>）にて認定製品をチェックできます。

施設運営における地球温暖化防止（CO2削減）への取り組み

アミューズメント施設では既存機器・設備の省エネ施策を進めており、一部店舗の照明、クレーンゲーム機、大型メダルプッシャーゲーム機、シングルメダル機等のハロゲンランプ・蛍光灯をLEDランプに変換して、使用電気量の削減とともにCO2の排出削減に努めています。

クレーン機に使われていた電球をLEDランプに交換



店舗の看板や店内照明をLED化



namco伊勢佐木町店

なお、アミューズメント施設では、お客さまの安全面や防犯面などで支障のない範囲をライトダウンし、ゲーム機の明かりなどで運営を行う「ライトダウンキャンペーン」を自主的に実施しています。ライトダウンは、照明設備面で実施要件を満たしている店舗の中で、母体商業施設様のご理解ならびにライトダウンを行ってもお客さまの安全が十分確保でき、お客さまが安心してお楽しみいただけるエリアに限定して実施しており、2020年度は7月7日、8月7日に24店舗で実施しました。

ライブ・イベントにおける環境配慮への取り組み

バンダイナムコライブクリエイティブでは、ライブ・イベントの照明にLEDを積極的に利用し省エネを図っているほか、舞台道具を再利用し木材などの自然材料の削減に努めています。また、会場でオリジナルのエコバッグの販売のほか、ライブ・イベント中に使用する使い捨てのペンライトを、繰り返し使える電池式のペンライトに切り替えて販売するなど、再利用可能なライブグッズの販売に努めています。



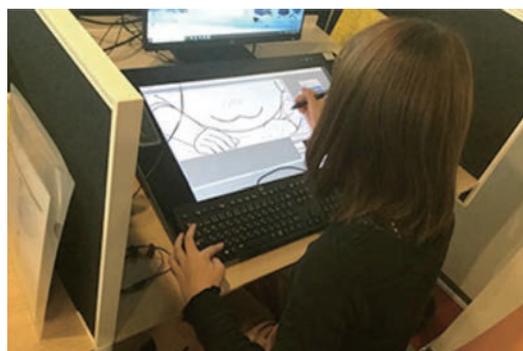
再利用可能なLEDペンライトを販売し、ライブ照明をLED化した「ランティス祭り2019」の様子
©BANDAI NAMCO Arts Inc.

アニメ制作におけるデジタル作画の推進

バンダイナムコピクチャーズでは、デジタル作画導入によるペーパーレス化を推進しています。デジタル作業に特化したスタジオとして、2018年8月に設立した大阪スタジオをはじめ、2019年10月には福島県にいわきスタジオを設立しました。アニメーションのデジタル化は、それまでの作画用紙の大量使用を抑制するだけでなく、ネットワークを経由した作画の送付が可能となるため、運送によるCO₂排出の削減にも貢献しています。



大阪スタジオ



デジタル作画の様子



いわきスタジオ

物流業務におけるエコドライブ活動と倉庫における省エネルギーの取り組み

バンダイロジパル・ロジパルエクスプレスでは、エコドライブ活動を16年以上継続して行っており、全社の平均燃費は活動開始時と比較して20.4%改善しております。(2021年7月現在) 首都圏近郊の集配を担当する3t車1両は、廃食用油100%のバイオディーゼル燃料を使用しています。



エコドライブ研修の様子

ロジパルエクスプレスがエコドライブ活動コンクールで国土交通大臣賞を受賞

ロジパルエクスプレスは、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団主催の「平成30年度エコドライブ活動コンクール」で、応募件数665件の中から最も優秀な取り組みを行った団体に贈られる『国土交通大臣賞』を受賞しました。長年にわたる独自の環境マニュアルの整備や、デジタルタコグラフを活用した燃費管理と教育の実施、また、ドライバーコンテスト等の取り組みを継続して行っていることが高く評価されました。

「2020年度エコドライブ活動コンクール」では『エコドライブ優良活動認定証』を受賞しています。

さらに、倉庫内においては、照明のLEDへの切り替え、エネルギー効率の高い冷暖房設備への切り替えも積極的に行い、省エネルギー化に取り組んでいます。

分港化で国内輸送を削減

物流業務において、海外で生産された商品を輸入する際に、仕向地に近い輸入港（東京港、川崎港、大阪港、神戸港、博多港、他）を選定し国内配送距離を低減する事で、輸送時に排出されるCO₂の削減に繋がっています。

各重要項目における取り組み コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー

バンダイナムコグループでは、世界中の人々へ「夢・遊び・感動」をお届けするため、「表現の自由」の尊重とともに、多様なコンテンツ商品を適切にお客様にお届けするよう努めています。

倫理表現に関する研修の適時実施および情報の集積・共有

各ユニットにおいて、倫理表現に関する各種研修を実施するとともに、さまざまな事例や最新情報を集積し、適切な表現のもと商品・サービスの提供が行えるよう、勉強会の開催や社員向けメールマガジンの配信など、社内共有を推進しました。



倫理表現に関する勉強会の様子
(写真は2019年度に撮影／2020年度はオンラインにて実施)

ゲームコンテンツにおける取り組み

バンダイナムコエンターテインメントは、青山学院大学総合プロジェクト研究所「知財と社会問題研究所<Solving Social Problems through Intellectual Properties/以下SSP-IP>と共同で、「ゲームを活用した社会課題解決の可能性の研究」を2021年1月より開始しています。主にゲームコンテンツにおけるアクセシビリティやポリティカルコレクトネス（社会的包摂を目指すための社会課題の探求）、ダイバーシティ&インクルージョン（多様性の尊重と包摂）などをテーマに、より多くの方が安心して遊べるゲームコンテンツを長期的に提供し続けることを目指して研究を行ってまいります。



映像パッケージにおけるバリアフリー音声ガイド等の導入

バンダイナムコアーツでは視覚や聴覚に障がいのある方にも映像本編を楽しんでいただけるよう、作品内の背景や人の動き、表情などを音声で解説したり、字幕を表示する取り組みを行っています。

視覚障がい者対応副音声	7タイトル
視覚障がい者対応日本語音声ガイド	6タイトル
聴覚障がい者対応日本語字幕	35タイトル

(2021年3月31日時点)



バリアフリー音声ガイド導入作品
 「映画クレヨンしんちゃん 激突! ラクガキングダムとほぼ四人の勇者」
 ©白井儀人/双葉社・シンエイ・テレビ朝日・ADK 2020

知的財産保護の取り組み（模倣品対策）

バンダイナムコグループでは、IPが持つ世界観を守り、お客さまに安心・安全な商品・サービスをお届けするため、社外のパートナーと緊密に連携して模倣品対策を実施しています。国内外の市場およびインターネット販売を含むウェブサイトの監視や、税関への輸出入差止申立を適宜行うことで、模倣品の早期発見、流入防止ならびに排除を行っています。また、国際知的財産保護フォーラム（IIPPF）のメンバーとして各国の法執行機関・関連団体と連携し、実効性のある対策に努めています。

バンダイでは、経済産業省 特許庁の令和3年度「知財功労賞」において、知的財産権制度活用優良企業として「特許庁長官表彰（商標）」を受賞しました。知的財産の観点による「キャラクターマーチャンダイジング」の保護と促進を両立する取り組みが評価されました。



真正品
©創通・サンライズ



模倣品

さらに、BANDAI NAMCO Holdings CHINAでは、中国の上海図書館と共同で知的財産意識の向上を目的としたオンライン講座を放送するなど、啓発活動に取り組みました。



知的財産意識の向上を目的としたオンラインラジオ番組収録の様子

各重要項目における取り組み サプライチェーン管理

バンダイナムコグループでは、私たちがお届けする「夢・遊び・感動」の質的向上のために、それぞれの事業に対応したサプライチェーンの管理向上に努めています。

各種監査の実施

バンダイでは、バンダイ製品を生産する海外最終梱包工場（2020年度は166工場）に対して、新規工場監査とCOC（Code of Conduct：行動規範）監査を一元化した「BANDAI Factory Audit」(BFA)を実施しています。「BFA」では、8つの基準（「強制労働」「児童労働」「労働時間」「賃金及び手当」「懲罰」「差別」「環境保護」「製造国に由来」）の遵守を宣言した「バンダイCOC宣言」を基本方針とし、独自の「BFAマニュアル」に基づき、監査を行っています。

なお「バンダイCOC宣言」や管理マニュアル、注意事項などは、日本語、英語、中国語で制作し、メーカー様向けホームページにも掲載し、逐次最新状況をご理解いただくようにはかっています。



中国生産工場でのBFAの様子

バンダイナムコアーツでは、DVD・Blu-ray Discパッケージのアッセンブルを行う工場に対する製造工程の立ち会い検査を実施するとともに、ライブ・イベント会場にて販売するグッズについても、自社基準を記載した工場監査チェックリストに基づいたヒアリング調査や工場環境視察を行っています。



グッズ商品 梱包状況確認の様子

バンダイCOC宣言

基本方針

バンダイは、全世界において事業拡大するにあたり、多くの国における公正かつ人権を尊重した労働条件を基に優良な製品を生産販売し、世界の人々に夢を与える企業として、下記コードオブコンダクト基準を遵守します。

強制労働

バンダイは、強制労働を使用する業者に対し取り引きは行わない。強制労働によって製造された材料は購入しない。また、バンダイは、そのような労働を強要している製造業者とのビジネスは中止する。

児童労働

バンダイは、子どもの生活に重大な関心を抱いており、児童労働を使用することは認めない。児童労働を強要する業者とは、取り引きしない。「児童」とは、その国、地域で適用される法律において、義務教育を終了する年齢未満の子どもをいうが、15歳未満の子どもはいかなる場合にも児童に含まれる。バンダイは若年者を搾取するものではなく、若年者の健康や安全に対して危険なものでない限り、合法的な訓練や労働実習のプログラムを推薦する。

労働時間

バンダイは、生産スケジュールが柔軟であることは認めるが、適用される法律に従った適切な報酬が支払われる残業を除いては、その国、地域での法的な労働時間を超過していない業者のみ、取り引きを行なう。労働者は、少なくとも7日のうち1日は休暇を与えられなければならない。

賃金及び手当

バンダイは、その国（地域）での産業界の賃金基準に合致するか、それを超える賃金及び手当を支払い、かつ最低賃金法を含むすべての適用法律を守る業者とのみ取り引きをする。

懲罰

バンダイは、体罰、その他の精神的、肉体的強制を強要する業者と契約したり取り引きを継続したりはしない。

差別

バンダイは、全世界における文化の違いを認め、尊重する。しかし、労働者は一定の仕事を実行する能力に基づき、雇用されるべきであり、個人の特質や信条に基づいて雇用されるべきではない。従って、バンダイは、人種国籍、政党への加盟、性的嗜好、もしくは性別によって採用及び雇用関係を差別する業者と契約したり、取り引きを継続したりはしない。

環境保護

バンダイは、適用される環境規則に従う業者とのみ取り引きを行う。

製造国に由来

バンダイは、虚偽のビザによって積み替えられ、もしくは輸送された製品をそれと知って購入しない。すべてのバンダイ製品は、適用法に従って、当該製品が由来する国について正確に押印され、ラベルを貼付されなければならない。バンダイ製品のすべての輸送は適切な書類によって裏付けとともに実行されなければならない。

サプライヤーと一体となった取り組み

バンダイでは、国内外の玩具関連の法改正に伴う安全基準や、バンダイが独自に定める品質基準の情報共有等を行う「サプライヤーカンファレンス」を毎年実施しています（2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から開催を中止し、資料配信にて理解を深めて頂くよう努めています）。また、バンダイが設ける評価指標に対して高いレベルを維持しているサプライヤーを表彰する「バンダイサプライヤーアワード」を制定し、取引先と一体となって労働環境や品質面の向上に努めています。表彰されたサプライヤーには、現場での取り組みについて他サプライヤーへ講演を行っていただき、ノウハウを共有しています。



バンダイサプライヤーアワード
(写真は2019年度に撮影／2020年度は表彰のみで開催中止)

物流業務における公的認証の取得

バンダイロジパルでは、「AEO認定通関業者（※）」の資格を取得し、法令に基づいた速やかな通関業務にあたっています。また、品質マネジメントシステムの国際規格である「ISO9001」や、個人情報保護にあたっての「プライバシーマーク」の取得など、各種公的認証を取得し、グループ内において品質の高いサービスの提供に努めています。

※貨物のセキュリティー管理とコンプライアンス（法令遵守）の体制が整備された者として、あらかじめ税関長の認定を受けた通関業者。国内で6社目となる認定をバンダイロジパルが受けています。

地域社会とともに 地域社会に向けた取り組み

本社所在地での取り組み

バンダイ本社では1階・2階をミュージアムとして、お越しいただいた一般の方々に楽しんでいただける空間を演出し、本社横には色々なキャラクターの立像を設置して、地域の皆さまとの交流や地域への貢献に努めています。

※現在、新型コロナウイルス感染症対策の為、一般のお客さまの入館をお断りさせていただいております。再開時期については未定です。



©BANDAI

©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

©BANDAI/TV TOKYO・ここたま製作委員会

©バードスタジオ/集英社・東映アニメーション

©Fujiko-Pro, Shogakukan, TV-Asahi, Shin-ei, and ADK

サンライズでは、本社最寄り駅の西武新宿線「上井草駅」に機動戦士ガンダムのモニュメントを設置しています。このモニュメントを活用して地域の火災予防運動などの啓発に協力しています。



©創通・サンライズ

また、杉並区上井草の地域活性およびアニメ文化の発展に貢献するべく、地域の年間行事にも協力しています。(写真は2019年度の活動)



上井草商店街の夏祭り



上井草スポーツフェスティバル2019

©BNP/BANDAI, DENTSU, TV TOKYO

おもちゃ団地協同組合への参加・支援

バンダイでは、栃木県下都賀郡壬生町にあるおもちゃ団地協同組合が社会貢献と地域活性化を目的に開催するイベントへの参加、支援を行っています。グループ会社のおもちゃバザーのほか、飲食店やキャラクター遊具の運営などを通じてイベントを盛り上げています。※2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み実施をしておりません。(写真は2019年度の活動)



「Sport in Lifeプロジェクト」への参画

バンダイとバンダイナムコアミューズメントでは、スポーツ庁の提唱により、2021年度末までに国民のスポーツ実施率65%（スポーツ実施者を新たに1,000万人増加）の達成に向けて、地方自治体、スポーツ団体、経済団体等オールジャパンでスポーツ振興に取り組む「Sport in Lifeプロジェクト」に参画しています。



【バンダイの取り組み:小学生向けスポーツシューズ
UNLIMITIV(アンリミティブ)】



【バンダイナムコアミューズメントの取り組み:
スペースアスレチック トンデミ(TONDEMI)】

BNJ PROJECT 「地元アソビづくり隊！」小学生の募集アイデアを実施

バンダイナムコエンターテインメントでは、地域と共に新しいエンターテインメントを創出し、日本全体を盛り上げる「BNJ PROJECT」において、全国の小学生からアソビのアイデアを募集して一緒にカタチにしていく応援プロジェクト「地元アソビづくり隊！」にて優秀賞に輝いた2つのアイデアを実施いたしました。

1つ目は福島県南会津郡只見町の子どもたちによる“国の重要有形民俗文化財である仕事着コレクションを活用し、只見線内でファッションショーを行う”アイデア「しぜんしゅと・只見ファッションコレクション」、2つ目は大分県大分市の兄妹による“県内の絶滅危惧種の動物と、自然を守ることをテーマにしたゲームを制作する”アイデア「すきっちゃ！！動物となかよし♡」を実施いたしました。



©BANDAI NAMCO Entertainment Inc.

太鼓の達人チャリティークッキー販売を通じた取り組み

BANDAI NAMCO Entertainment Taiwan Ltd.は、社会福祉団体「心路 (Syin-Lu)」とコラボレーションし、特別な「太鼓の達人クッキーセット」を2020年12月に3,000個限定で生産して発売しました。このコラボレーションによる売上金は社会的弱者の支援や知的障がいのある若者の就活支援に充てられました。



Taiko no Tatsujin™&©BANDAI NAMCO Entertainment Inc.

「AOU青少年アドバイザー」育成と地域での活動

バンダイナムコアミューズメントでは、地域社会とのより良好なつながりと関係機関との円滑な共生を図り、地域の健全な青少年育成活動を進めるために、「AOU青少年アドバイザー」資格の取得を推進しています。今後も地域と連携して健全な青少年育成の活動を活動をしていきます。



AOU青少年アドバイザーの在籍する店舗には、在籍パネルが掲示されています。

音楽を通じた取り組み

バンダイナムコアーツでは、アーティストの公演会場や配信ライブで販売するチャリティグッズの売上金の一部を、震災や豪雨などの被災地への義援金として、日本赤十字社を通じて寄付するなど、音楽を通じたさまざまな取り組みを行っています。



茅原実里 無観客配信ライブ「SUMMER CHAMPION 2020」
(チャリティーリストバンド)

©BANDAI NAMCO Arts Inc.

アニメの舞台となる地域での取り組み ～ラブライブ！サンシャイン!!～

サンライズでは、アニメ「ラブライブ！サンシャイン!!」の舞台である静岡県沼津市の地域活性化を支援しています。「沼津観光ポータル」に「ラブライブ！サンシャイン!!」ロケ地を楽しむ巡るモデルコースを掲載しているほか、公共交通機関のラッピング鉄道やバスの協力、市内の観光地を巡るご当地スタンプ「まちあるきスタンプ」などを行い、地域の方々と一緒に沼津市を盛り上げています。また、作品に登場するアイドルグループAqoursのメンバーが、沼津市特産の「西浦みかん」PR大使に任命されました。



©2017 プロジェクトラブライブ！サンシャイン!!
©2019 プロジェクトラブライブ！サンシャイン!!ムービー

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの連携による支援活動

バンダイナムコグループでは、2011年より公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの連携により、東日本大震災被災地の子どもたちに向けた活動を実施してきました。これまでに、絵本シリーズ「くまのがっこう」をテーマとした工作教室や、プラモデル教室の開催など、バンダイナムコグループらしさを生かした活動を実施しています。さらに、株主優待を活用して、株主様とともにセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへ毎年合計1,000万円の寄付を行っています。なお、2021年4月からは、被災地に限定せず、日本国内の子どもたちへと支援活動の対象を拡大しました。寄付金については、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが実施する日本国内の子どもたちへの支援活動に充当されます。



岩手県下閉伊郡山田町(2019年10月)



宮城県石巻市(2020年1月)



©BANDAI
©Nintendo・Creatures・GAME FREAK・TV Tokyo・ShoPro・JR Kikaku
©Pokémon

地域社会とともに 次世代を担う人づくりへの取り組み

おもちゃを題材にした出前授業の開催

バンダイではおもちゃを題材にした「おもちゃのエコ」「おもちゃのユニバーサルデザイン」「おもちゃの安全・安心」「統計と品質管理」を学べる無料の出前授業プログラムを関東近辺の小中学校を中心に行っています。全国の小中学校や施設で行える教材提供型の授業プログラムも含め、2020年度は、94か所（約6,500名）に実施しました。4～6月は非常事態宣言下にて中止。7月以降も新型コロナウイルス感染防止の条件下にて実施いたしました。また、オンラインでの出前授業をテスト的に行うなど新しい試みも行っています。



中国の上海市にて学校巡回キャラバンを実施

BANDAI SPIRITSは上海教育発展基金会と共同で、上海市内の小学校などの教育機関において、プラモデル教室を開催しています。※2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み実施をしておりません。（写真は2019年度の活動）



©創通・サンライズ

アメリカにおける子どもたちの支援活動

BANDAI AMERICA INC.では、1995年より、BANDAI FOUNDATIONという財団を通じて地域社会貢献活動を行っています。主に子どもたちとその家族がより良い生活を送れるよう、各種イベントや寄付活動を実施し、地域慈善団体の活動を支援しています。2020年度は、オンラインでのボランティア活動に参加しました。これからも、子どもたちへ健やかな未来を提供することを理念に、支援を続けていきます。



小中学生向けキャリア教育教材「おしごと年鑑2020」への協賛

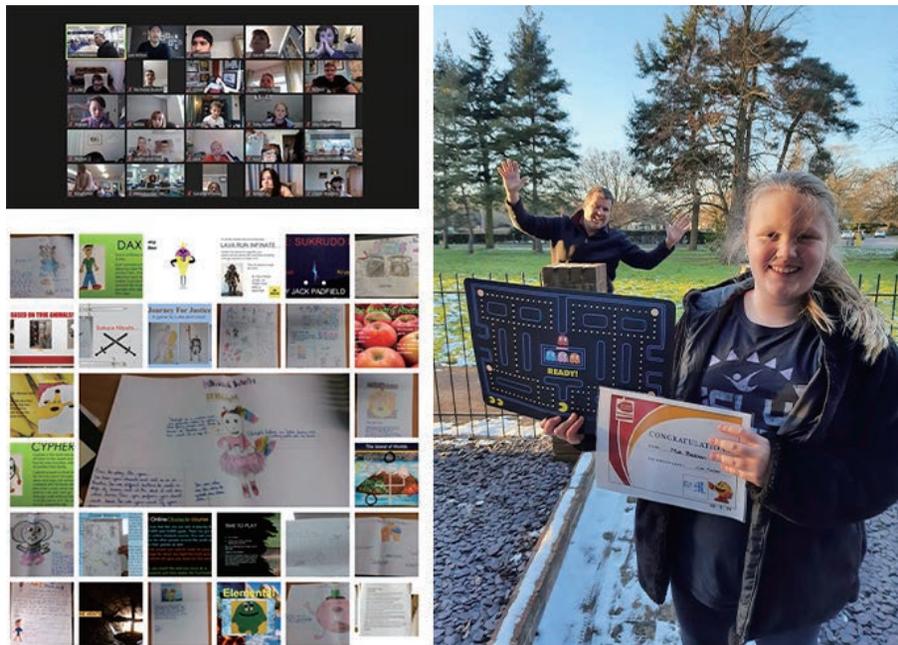
バンダイナムコエンターテインメントでは、子どもたちが仕事に対して興味をもつキャリア教育に貢献することを目的として、全小中学校と教育委員会等に寄贈されている「おしごと年鑑2020」(朝日新聞社発行)に協賛しました。



▲「人気のキャラクターグッズはどうやってつくるの?」をテーマにした会社紹介ページを掲載

オンライン授業を通じたキャリア教育 “Careers in Video Games”

BANDAI NAMCO Entertainment UK Ltd.では、子どもたちがゲーム企画を作成し、お互いのアイデアを発表し合うオンライン授業を行いました。ゲームの中身だけでなく、商品企画としてもアイデアを出し合う授業にすることで、受講した子どもたちのキャリア教育に貢献しました。



PAC-MAN™&©BANDAI NAMCO Entertainment Inc.

島根スサノオマジック選手による学校訪問授業

バンダイナムコエンターテインメントが運営に参画するプロバスケットボールチーム「島根スサノオマジック」は、島根県内の幼稚園、保育園、小学校に訪問し選手の夢や経験を子どもたちと語り合う「夢授業」の活動を行っています。2020年度は17校訪問しました。



企業訪問学習の受け入れ

サンライズおよびバンダイナムコピクチャーズでは、小中学生を対象に、アニメ制作やIPプロデュースなどを題材とした学習の場として企業訪問を受け入れ、アニメーション業界の現場の声をお届けしています。2020年は7校（100名）を受け入れました。



宇宙開発フォーラムを応援

宇宙空間を舞台にしたSFアニメーションを多く手掛けるサンライズでは、学生団体の主催する「宇宙開発フォーラム」の「学生の視点から宇宙開発の今を見つめ、文理の垣根を超えた議論をしたい」という想いに賛同し、フォーラム（のべ150名参加）で使用する画像の提供や参加者のブレインストーミングなどへの協力を行いました。（写真は2020年、オンライン開催のフォーラムの様子）



JAXAオンラインシンポジウム2020連携企画の配信

バンダイナムコアミューズメントでは「JAXAシンポジウム2020@オンライン」との連携企画として、オンラインとオフラインを行き来する新感覚の物語体験コンテンツ『#はやぶさ2からのメッセージ』を配信しました。

また、JAXAシンポジウムのオンラインでの開催にあたり、バーチャルでのエントランスホールや講演会場のデザイン設計・開発、展示コンテンツ「筑波宇宙センターバーチャルツアー」や、『#はやぶさ2』ARシミュレーター」の開発を担当しました。

これらは次世代を担う子どもたちや学生に向けて、宇宙に対してより身近に、楽しく興味を持っていただくための取り組みです。

また、社会の環境やライフスタイルの変化により、エンターテインメントに対する価値感が大きく変化中、これまでの事業知見を生かし、新しい生活様式でも安心安全に、場所(リアル・バーチャル)やコミュニケーションの方法を問わない新しい遊びを提案していきます。

子どもたちとの環境活動・活動支援

バンダイナムコグループは、子どもたちが自主的に環境活動や環境学習を行う「こどもエコクラブ」のパートナーとなり、各種活動への協賛を行っています。また、環境学習の場として、グループ社員とその家族も活動に参加しています。

こどもエコクラブとは

公益財団法人日本環境協会が、環境省の後援および文部科学省の支援のもと、地方自治体や企業・団体と連携を図りながら、子どもたちの環境活動を支援する事業で、全国約1,700クラブ、約9万人が会員となっています。(2021年3月現在)



環境学習会の様子（主催：こどもエコクラブ登録クラブ「逆川こどもエコクラブ」）
（写真は2019年度の活動）

中国における無形文化遺産伝承での取り組み

BANDAI NAMCO Holdings CHINAでは、2018年より中国の無形文化遺産の保護活動を行っています。2020年度は、メディアや一般消費者、特殊児童学校の学生向けに中国の上海図書館と共同で上海図書館の無形文化遺産である「古籍修復」と「拓本技術」の体験イベントを実施しました。



地域社会とともに 新型コロナウイルス感染症拡大に対する支援活動

「新しい生活様式」の中でのエンターテインメントの提供

バンダイナムコエンターテインメントでは、一部のゲームの期間限定での無償提供や、オンラインミーティングに活用できるバーチャル背景の配布などの施策を実施いたしました。また、公式SNSで、さまざまなキャラクターなどが、「うがいをしよう」「手を洗おう」などの感染予防メッセージを発信いたしました。



室内でチャレンジできる運動動画を公開

バンダイでは、子どもたちが屋内でも楽しく運動に取り組めるよう、IPを活用した運動動画を無料配信しています。キャラクターたちとともに運動不足を解消できる動画となっており、運動内容は日本女子体育大学教授の深代先生監修のもとに考案されています。



©BANDAI

玩具製造の金型生産技術で医療現場を支援

シーズでは、菊名記念病院（所在地：神奈川県横浜市）から要請をうけ、飛沫防護マスク（フェイスシールド）を生産し、2020年4月に医療機関へ寄付いたしました。2020年5月からは正式に生産を開始し、医療機関へ順次販売を行っています。



飛沫防護マスク



射出成形機

ライブエンターテインメント産業を支援

バンダイナムコアーツでは、業界団体の設立する基金への寄付を通じ、活動の継続が困難を極めている日本のライブエンターテインメント産業を担う事業者・スタッフを支援しました。

感染症予防の手洗い推進啓発ポスターを無料配信

サンライズでは、厚生労働省と協力し、『ラブライブ！サンシャイン!!』に登場するスクールアイドル、Aqoursによる新型コロナウイルス感染症予防の手洗い推進啓発ポスターを制作し、2020年5月12日から無料配信しています。ポスターは厚生労働省のサイトや『ラブライブ！サンシャイン!!』公式サイト、SNSを通じて配布し、どなたでも印刷を行い、手洗いについての知識啓発を推進したい施設、環境等で利用できます。



『ラブライブ！サンシャイン!!』公式サイト ポスター配信
©2017 プロジェクトラブライブ！サンシャイン!!

子どもたちに向けた「くまのがっこう」の動画を無料配信

バンダイナムコホールディングスとキャラ研は、コロナ禍においても子どもたちが楽しい時間を過ごすよう、絵本キャラクター「くまのがっこう」を用いた動画「映像版ジャッキーキャラバン」を制作しました。幼稚園・保育園の先生のための会員制無料情報サイト「くまのがっこう しょくいんしつ」を通じて、限定配信やDVD版の貸出を行っています。2020年度は、9月に第1回目、1月に第2回目を開催しました。



©BANDAI

社員とともに 方針・考え方

バンダイナムコグループは、働く社員の多様性を尊重し、グループ各社がそれぞれの特性に合わせた人事管理（採用・配置・育成・評価・報酬・福利厚生など）を行っています。本ページでは、各ユニット（事業）の事業統括会社における方針・考え方を紹介します。

エンターテインメントユニット（デジタル事業）

※事業統括会社であるバンダイナムコエンターテインメントの取り組みを紹介します。

バンダイナムコエンターテインメントは、ゲーム事業にとどまらず、エンターテインメントという幅広い事業を通じて、お客さまに「アソビきれない毎日を。」の実現を目指している会社です。「毎日を楽しみたい・満足したい・笑顔になりたい…」そう思っている世界中のすべての人に喜びと笑顔にあふれた毎日を過ごし続けてほしいと願っています。何気ない日常が、今よりずっと楽しいものになり、ふと気がつく、だれもが自然と遊んでしまう。そんな場面をもっと増やすために、私たち自身もワクワクドキドキしながらいつも本気で楽しく取り組み、これまでにない新しい「アソビ」を世界中に仕掛けていきたいと考えています。そこでバンダイナムコエンターテインメントでは、社員が楽しみながら学べる教育・研修制度、社員のライフスタイルに合わせて利用できる福利厚生制度をはじめ、「アソビきれない毎日を。」をお届けする企業にふさわしい環境づくり、社員を応援するための仕組みを充実させています。

エンターテインメントユニット（玩具ホビー事業）

※事業統括会社であるバンダイの取り組みを紹介します。

バンダイでは誰もが「楽しいとき」をつくりたいという思いを強く持ち、独自の才能・個性を発揮する「同魂異才」を人材ポリシーにしています。

バンダイは「人に夢と感動を」という“同じ魂”を持った「異なる才能」の集合体であると考えています。仕事を自ら作り出す社員にとってはチャンスに溢れ、管理職から新入社員まで誰にでも平等にチャンスがあります。社員にはバンダイというステージを思う存分活用することを期待しています。

IPプロデュースユニット（映像音楽事業）

※事業統括会社であるバンダイナムコアーツの取り組みを紹介します。

バンダイナムコアーツでは、「映像音楽を中心としたIPプロデュースを通じて世界の人々の心を豊かにする。」というミッションを全社員が共有し、一人ひとりの能力を最大限に発揮することができる環境づくりを基本方針としています。また、社員の成長を支援するため、各種制度の充実を図っています。

IPプロデュースユニット（クリエイション事業）

※事業統括会社であるサンライズの取り組みを紹介します。

オリジナルをゼロから創出する際に重要なこと、それは固定概念を打ち破る柔軟な発想と、時代の数歩先を読む力、そして何より強い信念を持って新しいことに恐れずにチャレンジすることです。社員には、「ゼロからイチを生み出す」ことに責任と誇りを持ち、そのイチが、世界中の人々の心の中で夢、驚き、感動、元気、憧れ、勇気などさまざまな形で10にも100にも無限大にも膨らむようにチャレンジし続けることを期待しています。

アミューズメントユニット

※事業統括会社であるバンダイナムコアミューズメントの取り組みを紹介します。

バンダイナムコアミューズメントは、リアルエンターテインメントのコンテンツプロバイダーとして従来のビジネススキームにとらわれずお客さまに想像を超える体験の場を提供し、「ネットとリアル」「バーチャルとリアル」といった境界がない「新しい遊びの世界」を創造することをミッションとしています。

またリアル「場」はお客様との接点として、バンダイナムグループのIP軸戦略の出口として必要不可欠なものでもあります。

これからもバンダイナムグループの総合力を生かし「いま、ここにしかないエンターテインメント体験」を世界中にお届けするためにも個性豊かな社員がいきいきと活躍ができる採用・制度・教育を提供したいと考えています。

関連事業会社

※当社特例子会社であるバンダイナムコウィルの取り組みを紹介します。

バンダイナムコウィルは「障がい者の雇用の促進に関する法律」に基づき認定された特例子会社です。バンダイナムグループの障がい者雇用促進と定着を推進し、グループ各社の事業支援を行っています。社員それぞれの異なる個性を尊重し、個々の可能性を追求し、その能力を活かし成長していける環境を創りだすこと、そして一人ひとりが業務を通じて社会に貢献していると実感できることを目指しています。

社員とともに 多様な人材の採用と登用

バンダイナムコグループは、働く社員の多様性を尊重し、グループ各社がそれぞれの特性に合わせた人事管理（採用・配置・育成・評価・報酬・福利厚生など）を行っています。なお、採用・登用については、グループ共通の基本方針として、新卒・キャリア、性別、年齢、国籍にこだわらない採用・登用を行うこととしています。本ページでは、ユニット（事業）の事業統括会社ごとに、具体的な考え方を紹介します。

エンターテインメントユニット（デジタル事業）

※事業統括会社であるバンダイナムコエンターテインメントの取り組みを紹介します。

バンダイナムコエンターテインメントでは、コンテンツ価値の最大化を目指すため、新卒・キャリア採用ともに、「強い成長意欲がある」「幅広くエンターテインメントに興味、関心がある」「新しい事業を創造し、推進できる」人材の獲得を目指しています。さらに近年は、コンテンツの海外展開拡大にあわせグローバルで活躍できる人材の獲得にも力を入れています。これからもネットワークエンターテインメント市場の多様化、ボーダレス化に対応することができる人材の採用・登用を実施していきます。

エンターテインメントユニット（玩具ホビー事業）

※事業統括会社であるバンダイの取り組みを紹介します。

バンダイの仕事は「自主独立」の精神をベースに成り立っています。自ら手を挙げ、熱意を持って周囲を巻き込み、具体的なプランさえ提示できれば、その社員にどんどん仕事を任せていく社風です。また、各部門のマーケットごとに特性もバンダイブランドの位置付けも違うため、ジョブローテーションにより多種多様な経験を積むことができます。引き続きグローバル人材の登用も積極的に実施し、世界中に拡大するエンターテインメント市場へ対応していきます。

IPプロデュースユニット（映像音楽事業）

※事業統括会社であるバンダイナムコアーツの取り組みを紹介します。

バンダイナムコアーツでは、「自分にしかできない仕事をやりたい」という強い志を持った人材を採用しています。ひとりでも多くの人々の心に残る優良なエンターテインメントをお届けするために、多様な個性を持つ社員一人ひとりの強みを活かすことを大事にしています。バンダイナムコアーツにしかできない仕事を実現し続けることで、映像・音楽・ライブNo.1企業グループを目指します。

IPプロデュースユニット（クリエイション事業）

※事業統括会社であるサンライズの取り組みを紹介します。

サンライズでは「ゼロからイチを生み出す企業」の企業理念のもと、次世代のIP創出を担う人材獲得を目指しています。オリジナルのIPを生み出して行くことは決して簡単なことではありません。新しい作品を生み出し、プロデュースするためには、何よりも失敗を恐れずにチャレンジをする強い信念を持つことが大切です。作品づくりへの情熱、そして作り手としての責任と覚悟を胸に秘めながら世界中の人々に感動を届けられる人材の採用を実施しています。

アミューズメントユニット

※事業統括会社であるバンダイナムコアミューズメントの取り組みを紹介します。

バンダイナムコアミューズメントの社員は、遊びのコンテンツを生み出すプロダクトの仕事から、お客さまにリアルな体験の場を提供する施設＝ロケーション運営の仕事まで幅広い職種で活躍しています。また、活発なジョブローテーションを推奨し幅広い経験を積むことで枠にとられない挑戦を通じた成長を期待しています。そのため、「情熱」「創造」「信頼」「責任」のポテンシャルをもって、自分にもチームにも仕事にも革新を起こしていける人材を積極的に採用・登用しています。

キャリアチャレンジ制度・店舗プロフェッショナル正社員

バンダイナムコアミューズメントでは、全国のリアルな体験の場を提供する施設の運営を支え、お客さまに遊びをお届けする「人」が重要と考えており、アルバイト・パートナー社員の方々が仕事を魅力的だと感じ、生き生きと活躍できる環境をつくるための「キャリアチャレンジ制度」を導入しています。それぞれの役割に応じた等級があり、定期的な評価によって等級のランクアップを目指せる仕組みです。上位等級には全社統一試験を設けており、試験へのチャレンジと合格支援サポートなどを通じて、現業の職場だけでは得られない能力向上の機会を用意しています。

さらなる活躍機会の拡大として、生まれ育った地元など、自分が希望する地域に密着した働き方を原則として、店長業務を筆頭に施設運営の仕事に特化して熱意と誇りを持って活躍し続ける社員区分として「店舗プロフェッショナル正社員」を導入して、積極的な採用・登用を図っています。

社員とともに 教育・研修

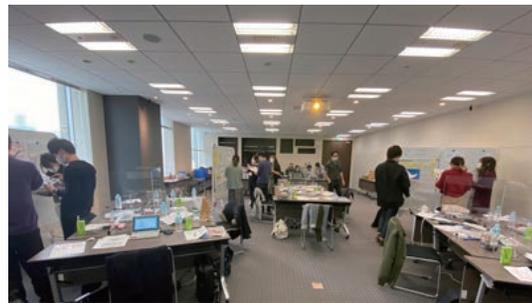
バンダイナムコグループは、働く社員の多様性を尊重し、グループ各社がそれぞれの特性に合わせた人事管理（採用・配置・育成・評価・報酬・福利厚生など）を行っています。本ページでは、各ユニット（事業）の事業統括会社における教育や研修の取り組みについて紹介します。

エンターテインメントユニット（デジタル事業）

※事業統括会社であるバンダイナムコエンターテインメントの取り組みを紹介します。

バンダイナムコエンターテインメントでは、役割に応じたスキルを身につけるための「階層別研修」に加え、事業を創造できる人材の育成を目指す「選抜研修」や、個々のニーズに対応した「自由選択型研修」（年間15プログラム開催）など、幅広い研修を実施しています。

各研修では、社員が自ら気づきを得られるよう、ゲームメソッドを活用したビジネスマナー研修など、体感型の研修を積極的に取り入れています。「学びやすく、視点が広がり、仕事に活かせる」、そんな研修を実施しています。



バンダイナムコエンターテインメントの主な教育・研修カリキュラム	2020年度実績
階層別研修	94名
新入社員研修	47名
自由選択型研修	255名（延べ人数）
事業創造人材育成研修	13名

エンターテインメントユニット（トイホビー事業）

※事業統括会社であるバンダイの取り組みを紹介します。

「自主独立」がバンダイの人材育成のテーマです。新入社員には、自分で考え、学び、行動を起こす人材に成長するためのプログラムを実施し、キャリアを積んだ社員には、自らを振り返る「気づき」やそれぞれの直面する課題解決につながるプログラムを実施しています。例えば、バンダイに入社する新卒社員を対象にチームビルディングの重要性を認識してもらうための「バンダイナムコアドベンチャープログラム」



※写真は2019年度

を実施しているほか、社員の語学力アップを応援するために「早朝英語活動（通称エイカツ）」を開催するなど、ニーズに即してさまざまな教育・研修を実施しています。

バンダイの主な教育・研修カリキュラム	2020年度実績
アドベンチャープログラム※	56名
新卒入社3年目研修	54名
早朝英語活動（エイカツ）	34名

※コロナ禍のためオンラインにて代替の研修を実施

IPプロデュースユニット（映像音楽事業）

※事業統括会社であるバンダイナムコアーツの取り組みを紹介します。

バンダイナムコアーツでは、映像・音楽の業務上基本となる著作権の理解を深めるため、毎年、事業セグメントの所属会社社員向けに法務・知的財産の研修を実施しています。また、個人のスキルアップ向上を目的とした知識・スキル向上研修や階層別研修、各自の自己啓発支援として資格取得奨励金制度を設けているほか、社員の活躍の場を広げるために語学学校受講費の一部を補助する制度を導入しています。さらに、社員の社外セミナーへの参加も積極的に支援しています。



商材品質表示セミナーの様子
(2020年度の研修は全てオンライン開催、写真は2019年度)

バンダイナムコアーツの主な教育・研修カリキュラム	2020年度実績
著作権関連研修 全5回	のべ177名
知識・スキル向上研修（契約・商標その他）全6回	のべ241名

IPプロデュースユニット（クリエイション事業）

※事業統括会社であるサンライズの取り組みを紹介します。

サンライズでは、「5年目研修」、「新任マネージャー研修」などのバンダイナムコグループ合同での研修に加え、役員も対象とした職場でのさまざまなハラスメント防止のための「ハラスメント防止研修」、新人育成のスキルやマインドのインプットを行う「育成担当者研修」、中堅層に必要なスキル獲得のための社外研修など、さまざまな研修を実施しています。



※写真は2019年度

サンライズの主な教育・研修カリキュラム	2020年度実績
新入社員研修	15名
5年目研修	4名
新任マネージャー研修	2名
ハラスメント防止研修	65名

アミューズメントユニット

※事業統括会社であるバンダイナムコアミューズメントの取り組みを紹介します。

バンダイナムコアミューズメントでは、全社員が“REAL INNOVATOR”として成長することを目指して教育・研修を行っています。

新入社員には、自身で考え、周りを巻き込んで行動することを学ぶプログラムを年間を通じて実施し、その後も定期的な研修で事業推進人材に成長するためのサポートを行っています。



2020年度はコロナ禍の影響もあり、従来の集合型研修に代わり、すべての研修をオンライン開催に切り替えています。

バンダイナムコアミューズメントの主な教育・研修カリキュラム	2020年度実績
新入社員研修	35名
ストアマネジャー研修	213名
新任評価者研修	10名

関連事業会社

※当社特例子会社であるバンダイナムコウィルの取り組みを紹介します。

バンダイナムコウィルでは障がいのある社員（以下スタッフ）に、情報セキュリティやハラスメントなどコンプライアンスに関する研修や、スタッフへ業務指導を行うインストラクター向けに、障がい種別の理解を深める勉強会の実施など、スタッフがより能力を発揮できる環境づくりを行っています。

また、在籍型企业職場適応援助者（ジョブコーチ）の資格を持った社員がチームを組み、課題解決（就業定着支援）のための専門性の高いサポートも行っています。



社員とともに 働きやすい職場環境づくり

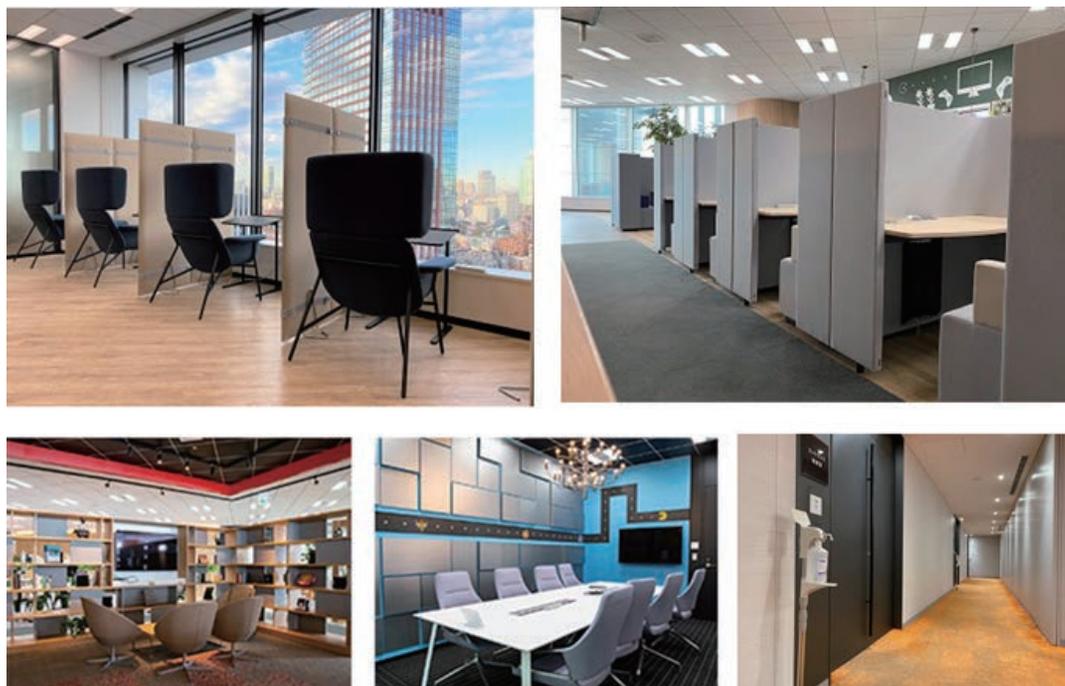
バンダイナムコグループは、働く社員の多様性を尊重し、グループ各社がそれぞれの特性に合わせた人事管理（採用・配置・育成・評価・報酬・福利厚生など）を行っています。本ページでは、各ユニット（事業）の事業統括会社において取り組んでいる職場環境づくりについて紹介します。

エンターテインメントユニット（デジタル事業）

※事業統括会社であるバンダイナムコエンターテインメントの取り組みを紹介します。

バンダイナムコエンターテインメントでは、社員が心身ともに健康で働くために、年齢別のきめ細かい健康診断のほか、専門機関による電話相談、常勤産業医・保健師による健康に関する相談、社内外カウンセラーによる電話・メール・面談などを通じて、メンタルヘルスを支援しています。

また、社員自身と周囲の安全に配慮すべく、マスク着用・消毒・検温・時差出勤・ソーシャルディスタンスの徹底を行うとともに、新たな働き方におけるリモート会議の需要が高まっている状況を鑑み、ソロワークスペース増設の改装を実施するなど、安心かつ働きやすい職場環境づくりを進めています。



「ファミリーイベント」の実施

バンダイナムコエンターテインメントでは、日頃から社員を応援し支えている家族やグループ各社の社員との交流を目的として、「ファミリーイベント」を実施しています。2020年度は、コロナ禍でも安全に安心して参加できるようオンライン上での「オンライン感謝祭」を開催しました。イベント当日は、プラモデル組み立て&デコレーション体験やお菓子作り教室、マジック教室などを実施し、多くの社員とその家族が参加しました。



PAC-MAN™&©BANDAI NAMCO Entertainment Inc.

エンターテインメントユニット（玩具ホビー事業）

※事業統括会社であるバンダイの取り組みを紹介します。

バンダイでは、さまざまな家庭事情を抱える社員にとって働きやすい環境を整備し、社員の精神的安心をもって勤労意欲の高揚を図ることを目的としてライフサポート規程を導入しています。また、社員に訪れる様々なライフステージに寄り添うことが、社員の仕事における自己実現にも繋がると考え「ファミリーフレンドリープラン」も策定しました。このプランでは、結婚、出産、育児休業、不妊治療、子の看護、子の不登校、さらには今後の高齢化社会の中で起こりうる看護・介護事由等での休暇取得や、支援金受給をすることができます。

アニバーサリーお祝い制度

バンダイでは、社員とその子どもたちのアニバーサリーをお祝いする制度を設けています。社員の誕生日には、社長のメッセージが印刷されたカードに、上司が直筆メッセージを書き、図書カードを添えてプレゼントします。また子どもたちには誕生月に社長のメッセージが印刷されたカードとこども商品券が贈られます。

IPプロデュースユニット（映像音楽事業）

※事業統括会社であるバンダイナムコアーツの取り組みを紹介します。

バンダイナムコアーツでは、より安心して働きやすい環境を作ることを目的に健康診断に対し受診費用の補助を行っています。これにより、20代の社員でも自己負担なく人間ドックを受診できるなど社員の健康保持に努めています。そのほか、ライフサポート制度、フレックスタイム制度（コアタイムなし）、永年勤続表彰制度、テレワーク制度、復職支援制度、出産・子育て支援制度、育児短時間勤務制度（小学校6年生修了まで利用可）など、さまざまな制度を制定し、より良い労働環境の整備に努めています。

オフィス内へのフリーアドレスの導入

バンダイナムコアーツのオフィス内は、個人専用のデスクではなく、社員が自由に着席場所を選んで仕事ができるフリーアドレス制度を導入しています。異なる部署の社員でも隣り合って自由に会話することができるため、新たなアイデアや取り組みが生まれやすい環境となっています。



IPプロデュースユニット（クリエイション事業）

※事業統括会社であるサンライズの取り組みを紹介します。

サンライズでは、定期健康診断やストレスチェックなど心身ともに健康で働くための対応はもちろん、柔軟な働き方を可能にするためのフレックスタイム制、裁量労働制、時短勤務、時差勤務など、さまざまなバリエーションの働き方の制度を準備しています。また、社員同士のコミュニケーション向上を目的とする社内イベントもあり、さまざまな面から働きやすい職場環境を目指しています。

「ファミリーイベント」の実施

サンライズでは、日頃から社員を応援し支えている家族やグループ各社の社員との交流を目的として、「ファミリーイベント」を実施しています。2020年度は、コロナ禍でも安全に安心して参加できるよう、オンライン上でのイベントを開催し、約150名の社員とその家族が参加しました。イベント当日は、ガンプラ教室や作画体験、「アイカツ！」のダンスパーティー、企業訪問体験などを実施しました。



©創通・サンライズ

アミューズメントユニット

※事業統括会社であるバンダイナムコアミューズメントの取り組みを紹介します。

バンダイナムコアミューズメントでは、社員が力を100%発揮するには、「心身の健康」、「将来への安心」、「充実した余暇利用」が必須であると考えています。社員が心身ともに健康で働くために、健康診断、健康に関する相談、メンタルヘルスのメニューにより支援をしています。そのほか、まとまった休日を計画的に取得する「リフレッシュ休暇」や、柔軟な働き方を自身で選択できるフレックスタイム制度、ライフサポート制度などさまざまな制度や施策を用意しています。

また、全国にアミューズメント施設を展開しているため、社員が引越しを伴う転勤となる際には、転勤先の住居手配から家賃費用を手厚く会社がサポートし、社員の負担の軽減を図っています。

ワークライフバランスの取り組み

◆ACTviewプロジェクト

会社のミッションである「境界がない新しい遊びの世界を創造する」ために、様々な属性、価値観を持つ‘一人ひとり’がイキイキと活躍できる職場づくりを行うプロジェクトです。

2020年度の活動実績

- 従業員アンケートの実施：働きやすい職場づくりのため、従業員の声を聴くアンケートを実施しています。
- 情報発信ポータルサイトのオープン：育児や介護などの各種制度紹介、育児休業を取得した社員のレポートなど、ワークライフバランスを促進するための情報を発信しています。
- カフェテリア式オンラインセミナーの実施：キャリアデザイン、マネジメント、仕事の効率化など、自身のキャリアを磨くカリキュラムから学びたいものを選択し、受講します。



◆オンラインストレッチセミナー

現在、本社勤務者は勤務日の7割を在宅で勤務するよう推奨しており、テレワーク下の社員の健康維持や生産性向上のため、オンラインによるストレッチセミナーを開催しました。

講師は、2020年4月にトップアスリート採用で入社し、現在は経営企画部に所属するトランポリン競技の堺亮介選手と、健康推進室の保健師が指導を行いました。セミナーの前半は保健師から在宅勤務における日常での健康管理について、起こりやすい健康課題やその具体的な解決手段のレクチャーがあり、後半は堺選手より、在宅勤務で負担のかかりやすい首・腰・下半身などをほぐすための、自宅や職場で簡単にできるストレッチを、実際に体を動かしながらレクチャーしました。



関連事業会社

※当社特例子会社であるバンダイナムコウィルの取り組みを紹介します。

スタッフ表彰制度

バンダイナムコウィルでは、1年を通しての業務功績、永年勤続（3年・5年・10年）、スポーツや文化の分野での活躍やその活動へのサポートなどを対象として、年に一度表彰を行っています。



また、障がいがある方が日々の業務で培った技能を競う大会「アビリンピック」に参加した社員に対しても表彰を行っています。

2020年11月に開催された第40回全国アビリンピックには、2名の社員が出場しました。そのほか、2021年3月に行われた第41回全国アビリンピックの東京都代表選考会では、4競技7名が参加し、2名が代表に選出されました。



アビリンピック全国大会の様子

誕生日休暇制度

バンダイナムコウィルでは、ワーク・ライフ・バランスの一環として年次有給休暇の取得推進を行うとともに、誕生日は家族などと大切な時間を過ごしてほしいという思いのもと特別休暇として誕生日休暇制度を設けています。2020年度の誕生日休暇の取得率は100%となっています。